(2)【一般】おやまこどもプラン素案に関するパブリックコメントのご意見と本市の考え方

対応状況／修正：ご意見を元に計画原案を修正するもの

賛同：計画の内容と同じ又は計画の内容に含まれるご意見

参考：計画を進めるときに参考とすること

その他：計画の内容以外のご意見やご質問

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
1	第1章 計画の概要	「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律」(R6.9.25 施行)に変更されたため、修正が必要ではないでしょうか。	修正	いただいたご意見をもとに、令和6年9月から法律名が変更となったことを追記いたします。
2	第1章 計画の概要	きめ細かなアンケート調査と分析に基づいた計画となっていることが分かりましたが、一方で、特別に支援を必要としている人ほどアンケート調査からあぶれることもあると思います。最も困難を抱えた人の事例から、未然に防ぐ対策を検討していくことも必要だと思いました。 「こども政策の目指す将来像」の図に、「市民への意見聴取」があり、市民の声をしっかり聴いて反映させようとの姿勢がうかがえますが、「こども施策」ですから、子ども自身の声もしっかりと聴く姿勢をここでこそ示して、「子ども・若者・市民への意見聴取」としてほしいです。	修正	いただいたご意見をもとに、「こども・若者・子育て当事者への意見聴取」と修正いたします。
3	第3章 施策の展開	「若者の居場所づくり」について、図書館や市役所のフリースペースを活用して、若者向けに他の集まる場所の紹介や相談先を常時掲示することでしょうか。「フリースペースを開放しておくから好きに使ってね。」というように感じました。フリースペースは、若者だけのための場所ではないと思うので、この内容だと伝わりづらいのではないかと思います。 「乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)」について、「ご家庭」「お子様」と他の文章より丁寧すぎてやや違和感があるので、「家庭」「こども」で良いのではないのでしょうか。	修正	「若者の居場所づくり」についてですが、図書館や市役所のフリースペースは若者も使用可能という内容となりますので、修正せずこの内容の記載といたします。 乳児等通園支援事業につきましては、ご意見をもとに修正いたします。
4	計画全般	100%積み上げ横棒のグラフで、「不満」と「満足」の色の違いが分かりにくい。「こども政策の目指す将来像の図」、「SDGsの10の目標の図」、「体系のイメージ図」、「重点のマーク」が解像度が低く、読みづらい。「PDCAサイクル」の「PLAN」だけ大文字。	修正	いただいたご意見をもとに、表記を修正いたします。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
5	その他	こども版についての意見です。3ページ目の基本理念やまちのイメージには、ふりがながないので、統一した方が良いのではないかと思います。また、ページ番号がないので、つけた方が説明をするときなどに分かりやすいのではないかと思います。	修正	いただいたご意見をもとに、ふりがなやページ数を追加いたします。
6	その他	不登校支援について「学習環境を整えて、自立した大人になるよう支えます。」と、子ども自身が見るこども版にのみ、本編や概要版にはない表現が見られます。「不登校の子は自立した大人になれないと言われてる？」と、週2日登校中の高校生が言いました。「自立した大人とは？」も問われます。「自立した大人」と言う、あいまい且つ大人の期待する将来像ではなく、現在の自信や気力の喪失などの心の健康を休息も得て取り戻し、多様な学びの機会を保障する、小山市の計画に則した説明にしてほしかったです。	修正	いただいたご意見をもとに、「学習環境を整え一人ひとりの思いに寄り添った支援をしていきます」と修正いたします。
7	第5章 新・放課後 子ども総合 プランの推 進	大いに賛成である。初めての試みではあるが、応援したいし、参加したい。 放課後の子どもの居場所が増えれば、多様な大人との関りも増え、子どもの視野も広がると考える。親としても、子どもの安全な居場所の確保は心のゆとりを生むことだろう。 コーディネーターによる地域資源の有効活用も期待できる。既に学校で出前授業などが行われているが、もっと身近な企業や大学、専門学校、市民団体にフォーカスをあてることも可能だ。大人側は、子どもたちの反応を直接見ることができ、新たな気付きとなり、モチベーションの維持にも繋がる。将来有望な人材の確保へと繋がるかもしれない。子ども側も、身近な企業や学校と触れ合うことで、地元への愛着も湧いてくるのではないだろうか。	賛同	引き続き、計画の推進に向けて着実に取組を進めてまいります。
8	計画全般	おやまこどもプランには、小山市の本気を感じました。PDCA サイクルを回し、スピード感のある対応に期待しています。	賛同	計画の推進に向けて着実に取組を進めてまいります。
9	第1章 計画の概要	P.14 こどもの学校の時間に合わせて就労形態を変更した可能性について 母親のワーク・ライフ・バランスを保つための手段と考えると納得できる。しかしその変更を、母親自身がポジティブなものとして捉えているか否かで、満足度は変わると考える。P.12の就学前後の児童保護者で、「不満」「やや不満」のポイントが増加するのもそのためではないだろうか。一人ひとりが中・長期的なキャリア計画を考えなくては、支援に頼りきりで不満ばかりが大きくなる。企業でワーク・ライフ・バランスやキャリアプランに関するセミナー等が開催されていたとしても、非正規雇用者への実施はまだまだ少ないと感じる。雇用形態に関係なく、一人ひとりが主体的にキャリアプランを考えるきっかけが必要だ。	参考	いただいたご意見につきましては、施策 3-3 共働き・共育での推進にも盛り込まれており、妊娠期から切れ目のない支援の充実とともに、多様で柔軟な働き方の推進など、誰もが働きやすい職場環境作りに向けた取組を進める上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
10	第1章 計画の概要	子育てを含めた親業は、マニュアルもなく学校でも教えてもらえない、世界一難しい仕事と感じる。あるのは自分自身が子どもの頃にしてもらった経験値だが、時代遅れ感が否めない。虐待を受けた親は虐待をしがちで、負のスパイラルも止まらない。その点、学校という場が親にとっても学びの場になりえる可能性がある。授業参観や引き渡し訓練など、親が学校に集うタイミングで簡単なセミナーも有効だろう。他にも、福祉担当職員による相談窓口等の情報提供。スクールカウンセラーによる具体的な子育てへのアドバイス。キャリアコンサルタントによるワーク・ライフシート活用による、バランスの見える化。専門員が相談窓口で待っているだけでなく、顔の見える関係値が必要ではないだろうか。親が「助けて」と援助要請を正しく出すことができないければ、子どもができないのも当然のことだろう。	参考	本市では、子育て家庭が抱える様々な課題や個別ニーズの対応するため、妊娠・出産から切れ目のない相談支援を行うため、こども家庭センターを設置し、虐待や貧困、ヤングケアラー等、子育てに関するあらゆる相談に対応するワンストップ窓口となっています。いただいたご意見につきましては、様々な子育ての負担感を軽減しゆとりを生み出す取組や、こども・子育て支援を進める上で、今後の参考とさせていただきます。
11	第1章 計画の概要	P.20～22 将来の夢や目標について 「夢」「目標」という言葉に敏感になる児童が一定数いると感じている。「夢や目標をもって当たり前。それをもっていない自分はダメな人間」と自分を責める。言葉を変えて、「好きなこと、得意なこと、興味があることはどんなこと？」と自己理解を深められる質問をすると、現在の自分のことだから答えやすい。そこから具体的な職業を例として挙げて、「その職業に就くためには、どんな進路の選択肢があるの？」と問うと、自分から調べ始める。併せて「感情は生き物だから、夢や目標が変わってもOKだよ」と伝える。夢や目標を語らせて終わりにしない。それがキャリア教育なのではないだろうか。しかし、一人ひとりとの対話は時間がかかり、担任だけでは対応できない。教員は、学び方を教える専門家であり、キャリアの専門家ではない。また、教員になるためのキャリアの道筋は単一的なもので、変化の激しい労働市場にどれだけ精通しているだろうか。高卒で就職する際、採用ルールがあることを知っている中学校の教員が、どれだけいるだろうか。名古屋市では、市内の全部の中・高校にキャリアナビゲーターが常駐している。在学中の数年間の単位ではなく、人生100年の長い尺度で生き方そのものを考える。学生から社会人への移行期を支え、ミスマッチから生じるひきこもりへのリスクを減らすためにも、キャリアコンサルタントなど専門職との連携も考えていただきたい。	参考	こどもたちが自分の良さや可能性を認識し、自己の将来を見通しながら、一人ひとりの社会的自立に向け必要な能力を育み、自分らしい生き方を実現する力を身につけるキャリア教育やライフデザイン教育に期待が高まっており、教育の充実を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
12	第1章 計画の概要	『(小5・中2・高2) 平日の放課後に過ごしたい希望の場所(複数回答) 全ての学年で「のんびりできる場所」との回答が最多となっています。』との結果が出ていますが、学校が子供にとって疲れる場所になっているのではないのでしょうか。『「進学や受験および就職のこと」「教育費や子どもにかかるお金のこと」との回答がそれぞれ4割を超えています。こどもの将来や子育てにかかる経済的負担を中心に、様々な悩みを抱えていることが分かります。』とのことですが、不登校になると、親が離職、休職したりして収入が減ることが多いです。また家にいる子供のために昼食を用意したり、家庭教師やカウンセラーを頼んだり、支出は増える傾向があります。小山市には現在フリースクールがなく、適応指導教室も1か所しかありません。また、適応指導教室では小学生クラスからそのまま中学生クラスへ上がれない仕組みになっており、不登校の低年齢化に制度が追い付いていないと感じます。子供の居場所は地域内という観点で考えると、適応指導教室は公民館と同数程度必要と思います。また民間のフリースクールへの支援なども望まれます。ぜひ不登校の当事者である子供たちやその保護者の意見を聞く場を設けてほしいです。	参考	いただいたご意見につきましては、不登校支援及び多様な学びの機会や支援体制の充実を進める上で、今後の参考とさせていただきます。
13	第2章 計画ビジョンと体系	不登校支援が、「支援が必要な子どもを支えるまち」の中にあり、それも必要なことですが、学校全体を不登校になりにくい学校にしていく、つまりすべての子どもが楽しく通える学校づくりも、急務です。子どもの多様性を当たり前認め、子どもを学びの主体ととらえ、子ども自身が学習を義務ではなく権利だと思える、つまり「楽しいから学びたい」「楽しいから学校に行きたい」と思える学校づくりに、真摯に取り組むことが求められていると思います。楽しむことやリラックスして過ごすことが、子どもの成長・発達や、幸せな日常、将来に希望を持って生きるために非常に重要であることがあまりにも軽視され、「緊張感を持つ、努力する、忍耐する、競争する、反省する」事ばかりが過度に重要視されている現状を見直してください。すべての子どもが籍を置き、起きている時間の大半を過ごす「学校」の場が、その子らしさが否定されることなく安心して生き生きと過ごせ、学べる場所でなければ、「すべての子が健やかに育つまち」「子どものウェルビーイング」の実現はあり得ないと思います。	参考	いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。
14	第3章 施策の展開	○児童養護施設の開設 小山市は児童養護施設が0。小山の子どもは小山で育めるとよい。○○小学校西の使われていない建物・土地に施設を開設する。 ○未来に夢と希望の持てる施策を願う。	参考	いただいたご意見につきましては、こども・子育て支援施策を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
15	第3章 施策の展開	P.70 不登校支援について 「きのくに子どもの村学園」のような、新しいスタイルの学校を設立してほしい。教室を飛び出してしまふ子の支援もしているが、現状の学校のスタイルが合わないだけで、学ぶ意欲はある。一人ひとりの興味関心に沿った学びを、大人がカスタマイズして提供できれば、教室を飛び出してしまふような問題行動が問題ではなくなると考える。 同時に、学びの多様化学校（不登校特例校）の設置も考えていただきたい。国は全国に300校設置を目指しているが、目標の2割にとどまる。宮城県白石市が設置した「白石南小学校・白石南中学校」では、廃校となった校舎を利用し、企業版ふるさと納税を使って市内外の企業から寄付を募るなどして資金を確保している。学びを止めず社会と繋がる新しい学校を、栃木県を代表して小山市から発信してほしい。ゆくゆくは、既存の学校を含めたたくさんの個性豊かな学校の中から、一人ひとりが選ぶことがスタンダードな社会になれば、もっといきいきとした子どもが増えるのではないだろうか。	参考	不登校児童生徒が増加傾向にあり、学校だけでは対応できない様々な課題があります。不登校の状態になっても適切な学びの機会が得られるよう、いただいたご意見につきましては、不登校支援を進める上で、今後の参考とさせていただきます。
16	第3章 施策の展開	施策2-6 No.133 児童発達支援センターの機能について、提案します。 ○「目標2 支援が必要な子どもを支えるまち」にある不登校やひとり親、貧困や発達障害、医療的ケアを抱える子どもに対して保育や医療、教育や福祉といった総合的に支援できる体制が必要で、子どもや親はいつでも予約なしで来所できる場所でリラックスした気分で悩みや相談ができる場所（児童発達支援センター）であることを望みます。乳幼児期から就学以降までの子どもがいる家庭を対象に、不安や悩みを抱える家庭に対して行政職員、教員OBや民生委員・児童委員、保健師などの福祉関係の人材と民間団体等の連携ができるようなアウトリーチ型支援の提供を望みます。 ○また、ここでいう児童発達センターに、いわゆる教育支援センターの機能を合わせたような場所になることを望みます。教育機会確保法に基づき、それぞれの児童生徒の状況に応じた様々な支援が可能となるような教育機会の確保を図っていくこと。特に不登校の問題は急務で、学校には行けるが休みがちである者、教室は入れず別室による指導を希望する者、在籍校には行けずに教育支援センターによる個別指導を受けたい者、別の学校で学習したい者、フルスクール等の民間の施設に通いたい者、自宅でICTを活用した学習相談を希望する者など、多種多様な学習支援の場が必要であると感じています。	参考	こどもを取り巻く課題は年々深刻さを増しており、多様な境遇にあるこどもやその家庭への支援は、目標2支援が必要なこどもを支えるまちの各施策に盛り込んでおります。いただいたご意見の児童発達支援センターにつきましても、施策2-6 障がい児・医療的ケア児への支援において重点事業としており、障がい児のライフステージに沿って保健・医療・福祉・教育・就労等の関係機関が連携し、支援を推進していく上で、今後の参考とさせていただきます。 また、いただいたご意見の不登校の課題につきましても、2-4 いじめ対策・不登校支援に盛り込んでおり、個々の状態に応じた適切な学びの機会が得られるよう、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
17	第3章 施策の展開	○施策1-4 育児にまつわる様々な経済的補助が行われていますが、これに「母乳外来受診助成」を加えていただきたいと思ひます。粉ミルクを否定はしませんし、母乳を与えられない方もいるため、母乳育児は強制されるべきものではありませんが、子どもの健康面、経済面、母子の精神面、そして授乳の“手軽さ“においても、もっと尊重されて良いものだと思います。ユニセフも母乳育児を推奨しています。しかし、個人差も大きいのですが、初めての育児や特に出産後の3カ月前後は、「長時間吸い付かれて痛い」「出が悪い(かもしれない)」「乳腺が詰まって痛い」「乳腺炎にかかる」など授乳が辛く困難で、適切なサポートがなければ続けていくことが困難です。月に1回など定期的に母乳外来を受診することで、乳腺のトラブルや不安を解消でき、「楽で幸せな授乳期間」を過ごすことができます。保険適応外で経済的負担の大きい母乳外来の受診を助成することで、母親が乳児期の育児を幸せな気持ちで行う一助になります。ぜひご検討ください。 ○施策1-5 包括的性教育の推進やプレコンセプションケアの周知等、非常に重要なことが盛り込まれていると思ひますが、まず子どもたちに、誰もが等しく人権を持っている、子どもには子どもの権利があることをしっかりと伝える必要があると思ひます。すべての子どもたちに、自分が大切な存在であり子どもの権利の主体であること、人権の大切さを伝え、犯罪などの人権侵害から身を守る事を勇気づけるCAPプログラムのワークショップをすべての小学校で実施することを提案します。これは、防犯プログラムでもあり、施策3-1「子ども・若者が権利の主体であること」の社会全体での共有にも当てはまります。新規事業としてぜひご検討ください。 ○施策1-6 ユースセンター機能の新設とユースワーカーの配置について、中高生の居場所の必要性を強く感じているので重点項目に掲げられていてとても嬉しく思ひました。ただ、現在の生涯学習センターの一角に「機能を新設」し、ユースワーカーを1人配置、とのことで、駅ビル内と言う立地は大変良いのですが、果たしてユースセンターとしての機能をきちんと果たす場所になれるのか、少し懸念があります。10代後半の子ども達が集い交流し楽しむ場所、つまり、多少は騒がしくなることはやむを得ず許容されるべき場所ですので、現在の生涯学習センターの中に、常設でそのような場所を確保するには、施設運営者やセンターを利用する大人の理解が必要不可欠です。	参考	おやまこどもプランは、こどもや若者を権利の主体と捉えて、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない相談・支援や様々な子育て施策の充実を図り、こども・子育て当事者だけでなく地域全体でこどもや子育て当事者を支える環境づくりを目指してあります。いただいたご意見につきましては、目標1すべてのこどもがすこやかに育つまちにおいて位置づけており、施策の充実を図る上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		駅そばの立地の良さは残しつつ、近い将来に、別の場所に、中高生の様々な需要に対応できるユースセンターを新設することを検討してほしいと思います。ただ、現在の生涯学習センターの一角に「機能を新設」し、ユースワーカーを1人配置、とのことで、駅ビル内と言う立地は大変良いのですが、果たしてユースセンターとしての機能をきちんと果たす場所になれるのか、少し懸念があります。10代後半の子ども達が集い交流し楽しむ場所、つまり、多少は騒がしくなることはやむを得ず許容されるべき場所ですので、現在の生涯学習センターの中に、常設でそのような場所を確保するには、施設運営者やセンターを利用する大人の理解が必要不可欠です。駅そばの立地の良さは残しつつ、近い将来に、別の場所に、中高生の様々な需要に対応できるユースセンターを新設することを検討してほしいと思います。また、ユースワーカーの配置ですが、その人選はこの場所が、真に子どもにとっての居場所になるか否かに関わる問題です。まだ日本ではユースワーカーと言う職種が十分に認知されておらず、人材育成の場も経験者も少ないと思います。非常勤雇用ではなく、生活をしっかり保障できる常勤雇用とし、子ども・若者支援とユースセンターの運営で多くの実績があるNPO法人カタリバや、歴史の長い京都のユースセンターなど、人材派遣（あるいは紹介）や研修などの協力を依頼してはいかがでしょうか。中高生としっかりと信頼関係を築ける人材を配置してください。また、ユースワーカーが、支援を必要とする子どもに出会った時に、迅速に適切な支援につなげることができるよう、関係機関との連携の体制作りも必須です。ユースワーカーが一人なのも心もとないのですが、せめて、生涯学習センターの職員も、連携してユースワーカーを支える運営体制をとれると良いと思います。ユースセンターの様に中高生に開かれた居場所は、学校にも家庭にも居場所がない子どもの抛り所となります。ここで安心して過ごせる仲間や信頼できる大人に出会えばいわゆる「東横キッズ」にならずに済み、必要な支援につながることも可能なはずで。そういった視点も入れての開館を期待します。 ○施策1-7 「多様な遊びや体験ができる機会の創出」とありますが、「多様な遊び」ができる場所と時間が子どもたちに圧倒的に不足しています。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、木登り、基地遊び、焚火、水遊び、泥遊び、木工等などを含め、子どもが自由にのびのびと遊び、様々な体験を主体的に積み重ねることができる「冒険遊び場 プレーパーク」の開設（新規設置及び既存の公園や児童館・保育園園庭、小学校校庭などのプレーパーク化）を提案します。		

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		プレーパークには遊びの環境を整え、子どもたちの遊びを見守る大人（プレーワーカー）が必要です。常駐のプレーワーカーは、子どもと地域住人とのつなぎ役にもなり、プレーパークの存在がみんなですべて子どもを育むまちづくりの拠点にもなっています。役割をしっかりと理解したプレーワーカーを、常勤雇用してください。 「多世代交流施設の検討」とありますが、川崎市の夢パークのような、屋内の居場所や遊び場と屋外のプレーパークを併せ持つ施設の設置を希望します。子どもの遊びを中心に多世代が交流でき、子育て支援の拠点にもなり、多様な学び場の一つにもなり、子ども食堂・地域食堂も可能です。子どもの権利や遊びの大切さなどの市民への啓発の場にもなります。また、東京都世田谷区では、住民運動を受けて区が設置した4か所のプレーパークを地域住民が運営しています。新設の複合施設を拠点として、各地域で、既存の公園や空き地などで、「自分の責任で自由に遊ぶ」遊び場の運営を地域住民が行う事も可能だと思います。遊びを豊かにする遊具を車に積んで出かけていく「プレイバス」や、生活道路の一定区間を、車の侵入を無くして行う「みち遊び」の取り組みなど、子どもの遊びを豊かにし、地域コミュニティの活性化にも資する方法は沢山あります。地域の集会所や公民館も、子どもの遊び場や地域の多様な人たちの交流の場・居場所、地域食堂として、もっと活用されても良いと思います。本来遊び場とは子どもが自ら行く場所であり、市内の全ての学童期の子どもが自力で行ける場所に、何かしらの魅力的な遊びの場、安心して過ごし地域の人たちと交流できるような場があってほしいと願います。 「遊び・体験活動プログラムの推進」「イベントの開催」が挙がっていますが、 「こどものまち」と呼ばれるイベントの開催を提案します。「こどものまち」とは、子どもが市民になり、好きな仕事に就いてまちを運営する事を遊びとして体験するイベントで、ドイツの「遊びのまち ミニ・ミュンヘン」に触発されて始まり、近隣では「ミニとちぎ」「ミニかぬま」「ミニまつぶし」（松伏町事業）「ミニ桐生」（桐生市事業）等があります。 面白さ・楽しさを追求すればこそ、子どもの主体性が生き生きと発揮され、試行錯誤が溢れる、単なる職業体験ではない「自治体験、まちづくり体験」であり、主権者教育としての意義を持ちます。各地の実践では、開催に地域の多くの大人がスタッフとして関わることで、人のつながりがコミュニティの再構築・地域の活性化となり、また、子どもたちが生き生きと主体的にまちづくりに参画し活躍する様子に、大人も多くの気づきと学びを得ています。さらに、地域の様々な大人と触れ合い共に楽しむ経験が、子どもたちの地域への愛着を育んでいます。		

No.	項 目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		こども・若者が権利の主体であることを皆で共有し、子どもの力を認め、意味ある参加を推進していくうえでも、今の小山市にふさわしい取り組みだと思えます。 「図書館でのお話会」が継続事業としてありますが、加えて、各小学校での読み聞かせの時間の拡充を希望します。読み聞かせボランティアによる小学校での読み聞かせはありますが、我が子の学校では各学期に1回程度で、他校でも同様とお聞きしました。近隣の市町では、月に1回、あるいは週に1回、読み聞かせの時間があると聞きます。全校がコミュニティースクールとなった現在、地域のボランティアによる絵本の読み聞かせの時間を、もっと増やすことで、子どもたちの楽しい時間を増やしてほしいと思えます。 ○施策1-8 44 予期せぬ妊娠へのサポート事業、「継続」とありますが、拡充をお願いします。 予期せぬ妊娠には、「東横キッズ」に代表されるような居場所のないこども・若者や、貧困やDVなどの背景をもつものも少なくないと思われます。性教育の徹底と合わせて、困った時には相談でき、方法が見つかるという事を、中学生や高校生にもしっかり伝えてほしいです。予期せぬ妊娠で窮地に立つ人が、助けられぬまま産後を遺棄する悲しい事件を、二度と小山市内から出さないという思いで、重点項目にしていきたいと思えます。 46 多胎支援クラス、「継続」とありますが、こちらも拡充をお願いします。 多くの人が「ワンオペ育児」である現在、乳児一人でも大変なことは多いですが、双子やそれ以上の場合の日常の大変さは、経験してない者には想像もつきません。過度の大変さは母親の心身の健康を蝕み、それは乳児の成長・発達へも影響し、育児の大変さへと悪循環し、虐待へと繋がります。母親、父親のそれぞれを対象とした指導、継続的な訪問支援と聞き取り、交流広場、地域の民生委員や児童委員とつなぎ近隣に頼れる人を見つけるなど、人員と予算を拡充して支援を強化していただきたいと思えます。 ○施策1-9 保育サービスに関わる職員の研修の強化をもとめます。		

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		子ども基本法・子どもの権利条約の理念を確認し、それに則った保育が行われるよう、職員に研修の機会を保障してください。体罰や虐待行為が（無自覚に）行われていないか、職員自らが過労等によって心の余裕をなくしていないか、保育において何を大切にすべきか、インクルージョンやニューロダイバーシティの理解など、すべての子どもたちの幸せな幼児期のために、保育の質を担保するために、研修の時間を確保してほしいです。 豊かな自然に触れる多様な保育の形式を支援してください。 「田園都市 小山」の豊かな自然を生かし、鳥取県や長野県のように、自然保育や里山保育を推進し、森の幼稚園や自主保育サークルなど、多様な保育の形態を求めて母親たちが自ら保育にあたる形式も含めて、助成を検討してください。 ○施策1-11 教育の充実 ・コミュニティースクールの充実 ・「子どもの幸せ」に基づいた「学力」の向上 →学ぶ喜びの尊重 宿題及び学力テストの在り方の検討又は廃止 ・子ども自身による校則の見直し ・学校司書の配置 ・小学校へ図画工作・音楽の専任教員の配置 ・各学校での「舞台芸術鑑賞会」の充実。（学校によって、担当職員によって、実施の回数や内容（質）に格差が大きい現状があります。小規模校では予算が少なすぎて実施が難しいとも聞きました。民間との連携も視野に入れ、様々な工夫で子どもの文化の権利を格差なく保障するように努力してください。NP0 法人栃木おやこ劇場は中学校の鑑賞会実施への協力実績あり。） ・特別支援の対象を全ての子どもに広げ（支援級を開放など）、従来の在籍者も普通学級で楽しく過ごせる学校へと改革を進める（インクルーシブ教育システムの推進を一層拡充して進めてください） ・「考え、議論する道徳」の授業づくり は、多様な視点で話し合い語り合い、お互いを認め合う、民主主義の基本を学ぶ場にもなるという視点で大変有意義な授業だと思います。p4c（子どもの哲学 philosophy for children）のセオリーも参考にされてほしいと思いました。 ・部活動への参加の強制の禁止、週2回など「楽しみ」を目的とした活動の在り方の導入		

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		・教職員の研修、特に子どもの権利条約の理念と、ニューロダイバーシティ（発達障害、HSC、性的マイノリティ等）の理解に関して。 ○施策1-12 放課後こどもの居場所事業や放課後子ども教室推進事業については、施策1-7で多世代交流施設について触れた際に具体例として挙げたように、地域の様々な資源や人材を活用しながら、子どもの権利条約31条が守られる取り組みになってほしいと期待します。 ○施策2-1 児童虐待防止対策と社会的養護の推進 ・カンガルー小山だけでなく、子どもの居場所事業（シリウス・おひさま等）の運営団体や、子ども食堂ほか様々な子どもの支援に取り組む民間団体との連携を一層進めてください。「継続」ではなく「拡充」が求められているものが多々あると思います。 ○施策2-3 就学援助制度 膨大な提出書類に追われる新学期の、申し込みの手続き、民生委員の訪問、毎月の受け取り（○時までには学校へ受け取りに行く）など、制度を利用すること自体が低収入でフルタイムで働くひとり親には特にハードルが高い現状を改善し、困窮している人がもれなく支援を受けることができるように改善してください。 ○施策2-4 いじめ対策、不登校支援 前述のとおり、「すべての子どもが楽しく通える学校づくり」も、いじめ対策・不登校支援の一環としても重要課題として取り組んでください。 多様な学びの機会や支援体制の充実 新規事業としての取り組み、とても嬉しく期待しています。様々な居場所の運営にも、それを選ぶ不登校当事者の家庭へも、経済的な助成も合わせて進めてください。必要経費が得られなければ、子どもの学びの機会を保障することはできません。また、多様な学びの場所として、家庭も学習の場として選択肢の一つに出来ることを付け加えてください。ホームエデュケーション、ホームスクーリングという概念があり、世界中で実践されています。親の会やフリースクール、居場所などの情報に、不登校や行き渋りに悩む保護者が触れることができるよう、官民の連携や情報提供を進めてください。 ○施策2-7		

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		日本語指導については、継続ではなく拡充してください。日本語指導員の資格を持つ人が日本語指導員として採用され、月給を得て生活できるように予算を充ててください。需要はあるはずだと思います。外国にルーツを持つ子どもたちを、支援の対象としてだけでなく、国際理解教育の宝、多様性を認め合う社会づくりへのパートナーと捉えて、参加を促す取り組みを進めてほしいです。 ○施策3-1 こども会議の継続ですが、地域の課題の解決に向けた協議が、実際の解決に生かされてほしいです。子どもの真剣な提案を実際に実現する前提で、子どもとの情報の共有を行い、実現が不可能であればその理由をしっかりと説明するなど、「意味ある参加」を進めて下さい。前述した、子ども自身による自分たちの学校の校則の見直しなど、検討してください。ケーブルテレビおやまやおーらじなどと連携して、子どもが楽しくメディアで発信することも、子ども参加の実践としてとても有意義だと思います。		
18	第6章 計画の推進 体制と進捗 管理	やはり組織の垣根を超えて、柔軟な対応が必要であろう。教員は学び方を教える専門家である。その教員が、子どもの家庭環境、子どもや親のメンタルケア、進路相談など、専門の範囲を超えた問題を抱えている。先生にゆとりがなくなれば、子どももゆとりがなくなる。教員の働き方を考える上でも、カウンセラーやソーシャルワーカー、ロイヤー、キャリアコンサルタントなどの専門職の常駐、あるいは巡回の回数を増やしていただきたい。変化の激しい社会を生き抜く力を、大人も子どもも養うために、具体的に行動へ移すべきであろう。	参考	こども・子育て支援を着実に実施するため、保健・福祉・教育などの分野を超えて連携を強化し、一貫した取組を推進する上で、いただいたご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。
19	計画全般	こどもの成長は、とても早いので、今後は5年計画よりも、短い期間(2~3年)で実施できるようなプランが良いと思います。(スピード感が大切だと思います)	参考	毎年度施策の進捗管理を行うほか、変化する社会情勢やニーズ等を踏まえ必要な見直しを行ってまいります。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
20	計画全般	ヨーロッパのように定期テスト廃止、人と比べない教育、幸福度を上げる教育にシフトしてくれたいなと思っています「夢みる小学校」「夢みる給食」「夢みる校長先生」の映画など観たり、こども家庭庁にもお勤めの大友剛さんの講演会なども出てきました。校長先生には校則を撤廃したり、定期テストを廃止する権限があるそうです。我が子は書字に困難を抱えています。公立の中学に通っていますが、冬休みなど自主学習1ページなど書く宿題があり、普通の子が1ページ書くのと障害のある子ではかけるスピードも違いますしストレスも全く違うので、我が家は穴埋めのプリントをして貼り付けたら1ページとカウントして欲しいと頼みましたが、うちの学校は書くのが伝統なのだと言われました。人権作文5枚書くのも何日もかかってしまうので1, 2枚ですますか出さないでいいですかと聞いてみましたが同様でした。もちろん、提出しない人もたくさんいるでしょうし、真面目すぎたのかもしれませんが。でも、評価はできません、特別扱いはできません、だけでなく、色んな評価の仕方があってもいいのかなと思いました。様々なものが特色や種類がある中、公教育だけが特色なく皆同じというのも違和感がありますし、様々な評価があってもいいのではと思います。県内にも星の杜校など定期テスト・校則を廃止して探求を大切にしている学校なども出てきました。今では黒板を一斉にみて授業を聞いて暗記中心の授業をしているのは北朝鮮と日本くらいになってしまいました。人生は解決のない問題の連続と選択の連続ですし、対立や競争よりも周りとの関係の中で協力して解決していかなければならない時代になりました。そろそろ公教育を見直して子供たちの心地よい居場所を作る、幸福感を高める場所に学校がなったらいいと思います。どうしたら幸せになれるのかを学ぶ場が学校になったらいいと思います。 学校の図書室は開館時間はお昼休みだけであとは鍵もしまっているようです。司書さんもいなくて。図書館は子供たちの居場所です。新しい予算をつけて建物を建てるよりすでにある図書館などにもっと予算をつけて居心地の良い居場所にしたらいいんじゃないかと思います。 中学生の毎日の荷物が重すぎます。1日の自学で使える量なんてたかが知れているので無くなってなんでもいいから(なかったらお隣のクラスの子に借りれば良いと思う)教科書など学校に置いておいても良くなると思います。	参考	いただいたご意見につきましては、教育施策推進する上で、今後の参考とさせていただきます。 また、施策1-6 こども・若者の居場所づくりにも盛り込んでおり、地域におけるこどもや若者の様々な居場所づくりを検討する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
21	計画全般	子どもの権利条約・こども基本法の理念に基づき、子どもを権利の主体に、すべての子どもの幸せを目指し、子どもの最善の利益を考慮していくことを宣言している点について心から賛同します。子どもの権利条約は批准から30年を経てなお、その内容はあまり周知されてきませんでした。日本の子どもの置かれた生活環境において、12条の意見表明権（参加の権利）や31条の休息・余暇、遊び、文化的・芸術的生活への参加の権利の保障が急務です。そのためには、これらが子どもの健全な育ちに必要不可欠なものであるという認識が、社会全体に（教育関係者の間にさえ）欠如している現状から変えていく必要があります。また、国連子どもの権利委員会から日本政府に対する勧告（2019年第4・5回国連審査）では、「あまりにも競争的な制度を含むストレスフルな学校環境から子どもを開放することを目的とする措置を強化すること」＜パラグラフ39（b）＞と、学校教育についても言及されています。基本理念がお題目に終わらないために、遊び、休息、余暇、芸術文化、そして「意味ある参加」の意義と重要性などについての認識、そして、子どもの権利条約に一貫して貫かれる「権利の主体としての子ども、市民でありパートナーとしての子ども観」を、まずは教育関係者など子どもに関わる大人がしっかりと深め、一つ一つの事業に落とし込んで現状を改革していく必要があると思います。	参考	おやまこどもプランは、「こども基本法」に基づく国の「こども大綱」を勘案した小山市の目指すこども施策の取組方向を定めた計画であり、こどもの権利擁護に配慮した計画となるよう努めています。いただいたご意見につきましても、計画を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
22	計画全般	なぜ小山市は都会へのアクセス良く、高校生であれば好きなきに都会に出られる恵まれた環境にあるにも関わらず、「都会に出たい」と回答している人が多いのか考える必要があると思います。 「小山市に将来住みたくない」と回答し、理由が「特にない」と答えた人が多いことについても、好意的にとらえてはいけないと思います。小山には小山駅という、全国的に見ても高スペックの駅があります。東京ディズニーリゾートや都内のコンサートライブに出かけても日付が変わる前に帰ってこれる恵まれた環境で、なぜ多くの若者が「都会に出たい」と思うのでしょうか。それは多くの高校生が郊外居住のため、小山駅に「自力で」たどり着くことができないからと考えます。小山市には「小山は車がないと生活できない」という価値観が昔からはびこっています。幼少期の自然とのふれ合い「のみ」を重視して郊外に家を買ひ、これから居住場所を選択する人に「小山は車必須だから、家を買うなら郊外に」と吹聴する。その結果、自力で通うことのできる高校の選択肢が狭められ、塾すら親の送迎がないとできないという子供が多くなります。東京に遊びに行くにも、小山駅まで行きも帰りも親に送迎してもらわないと行けない。好条件にも関わらず小山市に次世代が定着しない理由はこれではないでしょうか。都会が近い、駅が便利の割に、「都会への憧れ」が強いのもこのためと思われる。前々から思っていたことですが、車がないと生活できない環境に子ども達を幽閉したら、いずれ都会に出て行かれるのは当然だと思います。公園や娯楽施設がいくらできても、車でしか行けないなら意味がありません。小山市は子育てに恵まれた環境にあるからこそ、ここが悔やまれます。郊外に家を買ひ、豊かな自然の中で伸び伸びと育てるとよく言われますが、豊かな自然こそ車に乗って向かうことをモデルにすべきだと考えます。たとえ小山駅周辺に住んだとしても、ほんの10分車を走らせるだけで豊かな自然に巡り会えるので、自然との距離感はさほど変わりません。生活拠点まで郊外に置いて、自由と選択肢を奪った上で「出て行かないで」と言うのはおかしいと思います。これについては、なぜ今まで誰も言ってこなかったのか疑問です。小山市には小山駅という強みがあるのだから、将来のためにも子育て世帯には駅周辺に住んでもらうような政策をするべきだと考えます。郊外の住民の数が減ってくるのは市長も語っているとおり確定なので、早急に次の子育て世帯に居住地のアプローチをしていくべきだと考えます。小山市の計画の核である「小山市都市と緑のマスタープラン」には、【駅周辺に子育て機能を誘導してウォークラブルとコンパクトシティ化を図る】と明確に書いてあるのですが、これが「おやまこどもプラン」に反映されていないのが不安です。	参考	小山市では、各計画においてこどもや若者、子育て世帯の視点に配慮し検討を行うことを目指しております。おやまこどもプランにおいても、こども・若者を権利の主体と捉え、本市のすべてのこどもが健やかに成長し子育てで家庭が安心して暮らせるよう、妊娠期からの切れ目ない相談・支援や様々な子育て施策の充実を図り、地域社会でこどもや子育て当事者を支える環境づくりを推進することを目指しており、いただいたご意見につきましても、計画を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		おそらく、若年層の居住区域が駅周辺に集まると困る層というのが存在して、なかなか小山市を上げて「小山駅への集約、中心部への居住」と言えないのだと思います。しかし、少子高齢化の今、遅かれ早かれこの結論にたどり着くのは時間の問題です。何よりマスタープランで計画立っているのですから、オブラートに包まず、駅周辺の高アクセス地への居住を積極的に発信していくべきです。もちろん居住場所の選択の自由は一人一人にあります。市が駅周辺の居住を推奨しない理由にはなりません。小山市はおーバスによる郊外住民の救済が盛んですが、それはすでに郊外に定住してしまい、足がなくなってしまった住民への対策です。おーバスがあるから郊外に住めるというのは、運転手の人手不足や、更なるインフラ問題を無視した考えです。マスタープランにある子育ての場を小山駅周辺に集約する事を重要視してほしいと考えます。小山市で多くの選択ができることを実感した子供は、より小山市が好きになってくれると思います。		
23	計画全般	「施策 安全・安心な環境の整備」では、なぜ交通安全に立哨指導という子供への指導のみなのでしょうか？もし現在、多くのドライバーが速度を守り、横断歩道付近で都度減速するような法を厳守した環境なら、記載事項が子供への指導のみになるのも理解出来ます。しかし私は、小山市でドライバーが制限速度を守って走行する光景すらほぼ見たことがありません。この環境ではいくら子供に自衛教育を徹底したところで、違反ドライバーが減らない限り簡単に轢かれます。栃木県警察が出しているデータ「市町別交通事故の発生状況」でも小山市は常にワースト上位をキープしています。令和6年はワースト3位と宇都宮市より上位です。違反運転が溢れる現状、まず「交通安全対策の推進」で徹底指導する相手は「小山市内を走るドライバー」だと考えます。大人がどうしても速度制限1つ守れないなら、強制的に速度制限を守るようフォローしてあげてください。 ・ゾーン 30+の設置 ・グリーンベルト→歩道への移行 ・生活道路の抜け道化の抑制 対象が「通学路」という限定的なものも消極的に感じます。小学生までが子供ではありません。小山駅 2km 以内、又は「小山市都市と緑のマスタープラン」P104～P105 の「小山駅周辺ウォークブル圏」内すべての道路で、上記を徹底すべきです。「小山市通学路交通安全プログラム」も確認しましたが、10年近く前に作られたこのプログラムが今反映された環境になっているとは思えません。	参考	小山市では、各計画においてこどもや若者、子育て世帯の視点に配慮し検討を行うことを目指しております。おやまこどもプランにおいても、こども・若者を権利の主体と捉え、本市のすべてのこどもが健やかに成長し子育て家庭が安心して暮らせるよう、妊娠期からの切れ目ない相談・支援や様々な子育て施策の充実を図り、地域社会でこどもや子育て当事者を支える環境づくりを推進することを目指しており、いただいたご意見につきましても、計画を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。

No.	項目	ご意見等	対応状況	市の考え方
		長い間、小山市は歩行者環境問題を放置し過ぎですし、「危険個所の改善対策」の具体的内容が書かれていないのは不安になります。蓋を開けたら、子供への交通安全指導しかやっていなかった、とならないことを望みます。 PLANUYAMA で「まちなかに住んで子育てしやすい」を掲げており、私はその方向性に期待し移住しました。せっかく作られた構想があるのだから、連携させた内容を望みます。 子育て世代の人口を増やすことに成功した流山市は、資料「第2期子どもをみんなで育む計画 ～流山市子ども・子育て支援総合計画～」にて「安全なまちづくりの推進」という項目を上げ、歩道整備を行っています。駅周辺を整備する事が子供、子育て世代に直接効果のある事が証明されています。現状の小山市は多くが親に送迎して貰わなければ子供1人で駅にすら行けない環境で、それに対する解決策が「おーバス」のみです。そもそも子供が徒歩や自転車で駅に行けるまちを目指すことを望みます。それが将来「まちなかに住んで子育てしやすい」小山市になると考えます。		
24	その他	・運転免許を持たない高校生にとって、バス便は貴重な足です。路線や本数を増やしてください。 ・すべての子どもの幸福な生活を掲げた施策を行うにあたって、「ユニセフ日本型子どもにやさしいまち（CFCI）」に取り組むことを提案します。具体的な達成目標に向かって取り組み、評価を受けながら継続することができ、取り組みを承認されることで移住促進などのPRにもなります。	参考	いただいたご意見につきましては、こども・子育て支援施策を推進する上で、今後の参考とさせていただきます。